

製品名: PPP2R3C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16429**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP2R3C PPP2R3C; C14orf10; G5PR; Serine/threonine-protein phosphatase 2A regulatory subunit B''
別名	subunit gamma; Protein phosphatase subunit G5PR; Rhabdomyosarcoma antigen MU-RMS-40.6A/6C
遺伝子 ID	55012.0
SwissProt ID	Q969Q6
免疫原	抗血清はヒト PPP2R3C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 165-214

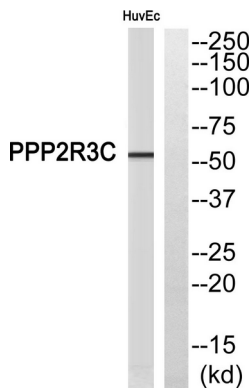
背景

この遺伝子は、セリン/スレオニンホスファターゼの調節サブユニットであるタンパク質ホスファターゼ2をコードしています。このタンパク質は、細胞周期の段階に応じて核領域と細胞質領域の両方に局在します。この遺伝子のホモ接合性条件付きノックアウトマウスでは、免疫系B細胞の数が減少し、増殖が阻害されます。このタンパク質は、ホスファターゼ活性を介してP糖タンパク質ATP結合カセットトランスポーターの発現を調節している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2015年2月]、発生段階：胎児脳で発現します。機能：ホスファターゼリクルートメントを介してMCM3APのリン酸化を調節する可能性があります。B細胞の活性化誘導性細胞死に役割を果たす可能性があります。類似性：2つのEFハンドドメインを含みます。細胞内局在：核小体から除外されます。局在は細胞周期に依存します。細胞質分裂期には細胞質に局在する。サブユニット：MCM3AP/GANPと相互作用する（相同性による）。PPP5C、およびPPP2CA触媒サブユニットと定常調節サブユニットPPP2R1Aからなるホスファターゼ2Aコア酵素と相互作用する。組織特異性：脳をはじめとする組織に普遍的に発現する。

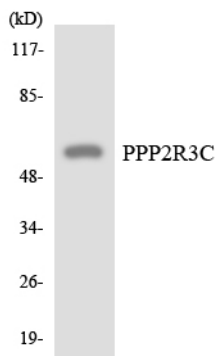
研究分野

神経科学; 神経伝達; カルシウムシグナル伝達; カルシウム結合タンパク質

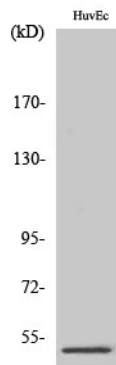
画像データ



PPP2R3C 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは PPP2R3C ペプチドでブロッキングされている。



PPP2R3C 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



PPP2R3C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析